

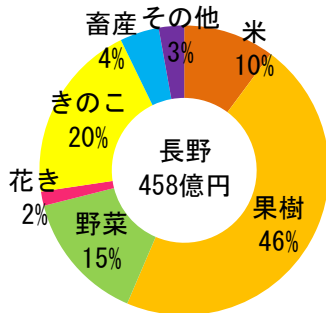
9 長野地域の発展方向

長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・高山村・信濃町・飯綱町・小川村

未来に夢を！次代へつなごう食と農、地域で築こう元気な農村

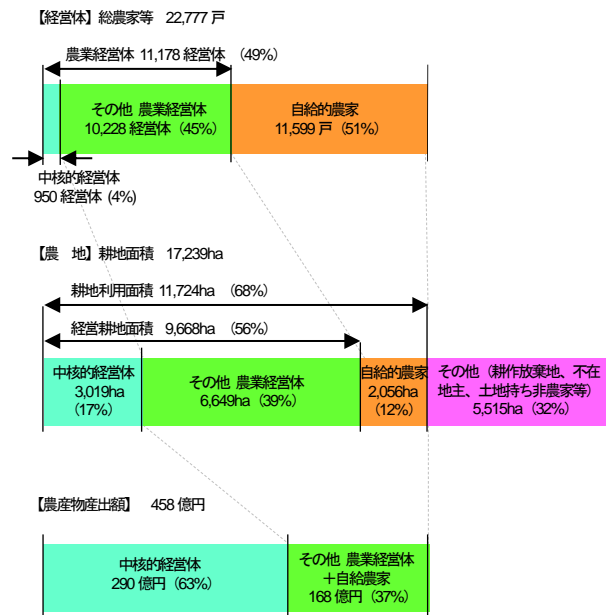
農業・農村の特徴

長野地域の農業は千曲川沿岸に開けた平坦な善光寺平地域と周辺の山間部地域の二つの地域に区分されます。耕地は標高330mから1,100mに位置し、気象・立地条件を巧みに活かした適地適作による産地化が図られ、全域にわたって多様な農業が展開されています。特に果樹は多品目が栽培されており、りんご、ぶどう、ももは栽培面積、生産量とも県内第1位の主力産地となっています。



農産物産出額(2015年産)

【平成27年】(2015農林業センサスより推計)



めざす姿

I 次代へつなぐ長野農業

- 地域の基幹作物である果樹を中心に新規就農者や定年帰農者等多様な担い手が活躍しています。
- 県内トップクラスの果樹産地として、消費者ニーズの高いオリジナル品種や新技術の導入、担い手への樹園地継承や生産基盤整備により、活力ある持続的な産地が発展しています。
- 地域の恵まれた立地条件を生かし、マーケットニーズに対応した野菜、花き、穀物など多様な農畜産物が環境と調和した形で生産されています。

II 消費者とつながる長野の食

- 長野地域の農産物の地域内利用が促進されるとともに、消費者に食や農業の重要性が理解され、信頼される産地が形成されています。また、地域農産物を活用した新たな商品開発と利用が進んでいます。

III 人と人がつながる長野の農村

- 農村資源を守り活用する地域の共同活動や都市住民などとの協働や交流により農村コミュニティが構築され、地域特産品目の振興などにより豊かな農村づくりが進められています。また、気象変動や災害に強い産地が構築されています。

地域の特徴的な取組

- 新規就農者や定年帰農者など多様な担い手によるりんご、ぶどう等果樹の生産振興に取り組みます。
- 「ながの果物語り」の取組を通じた果樹を軸とした地域活性化を推進します。

施策の展開方向

I 次代へつなぐ長野農業

重点取組 1

産地を支え未来につなぐ新規就農者や定年帰農者など多様な担い手の確保・育成

平成24年度(2012年度)からの5年間に186名(40歳未満)が新規に就農し、その内果樹栽培者数は138名となっているものの、農業従事者の高齢化やリタイアが進行していることから、引き続き担い手の確保が重要な課題となっています。

このため、農産物産出額の4割を占める果樹を中心に新規就農者や定年帰農者、女性農業者等多様な担い手の確保・育成や地域農業を牽引する経営体の育成に取り組むとともに、人・農地プランの適切な見直しと農地中間管理事業の一体的な取組により担い手への農地集積を進め、地域の産地を未来に力強くつないでいく必要があります。

達成指標

現状 (2016年)

目標 (2022年)

□ 果樹の新規就農者数(45歳未満)	32人	→	32人/年
□ 定年帰農等新規就農者数(45歳以上65歳未満)	4人		8人/年

注) 現状(2016年)はH26~H28の3カ年平均

施策の展開方向

- 県、市町村、農業団体による連携・分担と支援体制の強化
- 新規就農者や定年帰農者等多様な担い手の確保・育成と早期技術習得等の支援
- 地域農業を牽引する経営体の育成
- 担い手への農地の利用集積推進



【ICT活用「稼げる技術」短期習得実践道場】

重点取組 2

新品種・新技術の導入や樹園地の継承・集積で発展する競争力の高い果樹産地づくり

県内有数の果樹産地であり、りんご、ぶどう、ももは栽培面積、生産量とも県内第1位の主力産地となっていますが、栽培面積は生産者の高齢化等により減少傾向にあります。一方で、近年ワイン用ぶどうの栽培面積が増加しています。

このため、消費者ニーズの拡大が見込まれる「シナノリップ」や「ブドウ長果11」など県オリジナル品種等の戦略的拡大、りんご新しい化栽培等収益性が高く省力的な新技術の導入、担い手への確実な樹園地継承と集積、基盤整備を推進する必要があります。

達成指標

現状 (2016年)

目標 (2022年)

□ 果樹戦略品種等の栽培面積	1,155ha	→	1,480ha
□ りんご高密度植栽培・新しい化の栽培面積	82ha		110ha
□ 生産性を高める樹園地の条件整備面積	396ha		414ha

施策の展開方向

- 消費者ニーズの高い県オリジナル品種等の戦略的導入
- 省力的で収益性の高い果樹栽培の推進
- 地域振興果樹の生産安定
- 樹園地継承の推進と労働力確保への支援
- 畑地かんがい施設の整備など稼げる果樹経営の生産基盤整備
- 「ながの果物語り」の取組による果物の魅力発信と新商品開発の取組支援



【須高果樹セミナー(ぶどう短梢栽培)】

重点取組 3

地域の特徴を活かした野菜、花き、穀物等の産地づくりと環境農業の推進

野菜等の園芸作物や水稲、そばなどの土地利用型作物、畜産など地域の立地条件を活かした生産が行われ、アスパラガス、トルコギキョウなどは県内有数の産地となっていますが、産地間競争の激化や生産者の高齢化が進行しています。また、消費者の食の安全・安心に対する関心が高まっています。

このため、需要の多い作型への移行や高品質化・低コスト化による経営安定、基幹的土地改良施設の保全管理の推進、環境農業の取組強化が求められています。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積 (米・麦・大豆・そば) 593ha	593ha	762ha
□ 農業用水を安定供給する重要な排水施設整備箇所数	—	5箇所

施策の展開方向

- アスパラガスの早期成園化、半促成・長期どり栽培の推進
- 果菜類の生産拡大に対する支援
- トルコギキョウの抑制作型の拡大や地域特産花き等の導入
- きのこの病害虫対策や経営安定
- 水稲経営体等の徹底した生産コストの低減と複合化による体質強化
- 産地づくりに資する基幹的土地改良施設の整備と農地の条件整備
- 持続可能な畜産経営の推進とゲノミック評価等新技術の活用による生産拡大
- 環境農業の取組拡大



【アスパラガスの施設化】



【トルコギキョウの抑制作型】

II 消費者とつながる長野の食

重点取組 4

地域資源を活用した食育や地消地産の推進と新たな需要の創出

長野地域を代表する戸隠そば、おやき、おしぼりうどんなどの郷土食や、信州の伝統野菜などの地域資源を活用した食育・地消地産の取組を長野市などの大消費地においてさらに進める必要があります。

また、6次産業化などにより新たな需要創出・経営強化に取り組む農業者への支援や長野地域の農畜産物の魅力発信を進めます。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 学校給食における県産食材の利用割合 47.7%	47.7%	51%
□ 売上高1億円以上の農産物直売所の売上総額 20億円	20億円	26億円

施策の展開方向

- 郷土食や地域食材を活用した食育の推進
- 地域資源等を活用した地消地産の推進
- 6次産業化等により経営強化を目指す農業者の取組支援
- おいしい信州ふーどの取組による魅力発信



【東北信うまいものまると大商談会】

Ⅲ 人と人がつながる長野の農村

重点取組 5

皆が訪れ暮らしたくなる農村づくり

農村資源を守り活用する地域の共同活動や地域特産品目の生産安定、荒廃農地解消に向けた取組等を推進する必要があります。

また、担い手不足の著しい中山間地域等では、都市住民などとの協働や農村体験プログラムによる都市農村交流等を促進し、農村の活性化を図ることも必要です。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・ 発揮するための活動面積	4,056ha	5,073ha
□ 野生鳥獣による農作物被害額	1億1,300万円	9,000万円

施策の展開方向

- 農村資源を地域ぐるみで守る農村コミュニティ活動への支援
- 農商工観連携の強化による農村地域の活性化
- 地域特産品目の振興や荒廃農地解消に向けた取組への支援
- 野生鳥獣に負けない集落ぐるみの被害防止活動への支援



【水路の保全管理活動】

重点取組 6

活力に満ち安全安心な農村づくり

再生可能エネルギーや農村資源を有効活用するとともに、異常気象が恒常化しつつある中で、気象変動や自然災害から農作物・農地等を守る対策が求められています。

達成指標	現状 (2016年)	目標 (2022年)
□ 小水力発電の整備箇所数	2箇所	3箇所
□ 持続的な営農や農村の暮らしを守る取組面積	74ha	1,958ha

注) 小水力発電の整備箇所数は累計値

注) 持続的な営農や農村の暮らしを守る取組面積の現状(2016年)は、2期計画期間中の
湛水防除・ため池等の防災減災事業の実績累計、目標(2022年)は3期計画期間中に
同事業で取り組む面積の累計

施策の展開方向

- 小水力発電等の自然エネルギーの活用を推進
- 農村地域の湛水被害を防ぐ施設の整備を推進
- 地すべり防止施設の整備やため池等の安全対策の推進
- 気象変動等に対応した品種や栽培方式への誘導



【安全に整備されたため池】